

● 診療科の特色

緩和ケアとは、重い病気を抱える患者やその家族一人一人の身体や心などの様々なつらさを和らげ、より豊かな人生を送ることができるように支えていくケアであり、多職種から成る緩和ケアチームでのアプローチを原則とします。

当院でも 2006 年から緩和ケアチームが活動していますが(緩和ケア推進室)、2016 年 4 月から緩和ケア専従医師による緩和ケア内科の診療が開始されました。

- ・がん患者のみならず、非がん患者の疼痛等にも対応します。
- ・外来では、がん治療中の方、身体症状の緩和が必要な方を対象に、予約制で診療を行います。
- ・当院の入院患者であって緩和ケアが必要と判断された方については、主治医からの紹介を受け、原則として緩和ケアチームで介入します。主治医と連携を取りながら身体症状の緩和を行い、また、症状や相談内容に応じて専門職種と連携して症状緩和や QOL の向上を図ります。

● 入院診療実績

当院には緩和ケア病棟及び症状緩和専用の病床が無いため、治療主科の入院患者への介入により診療を行っています。

身体症状の緩和を依頼された患者の主な症状(緩和ケアチームの介入は緩和ケア対策室に掲載)

	疾患	患者数
1	がん性疼痛	58
2	気持ちのつらさ	35
3	全身倦怠感	20
4	せん妄	16
5	呼吸困難感	14
6	嘔気、食欲不振	13
6	不眠	13
8	非がん性疼痛	9
8	不安	9
10	腹部膨満感	7
10	便秘	7

● 研究業績

1. 学会

1) 岡山医療センターにおけるがん患者へのオピオイドの使用状況と今後の課題

宮武和代、藤原慶一、岸口武寛、市由美子、三嶋美穂、小野友香、田頭尚士、中西初実、熱田幸子

第 24 回日本緩和医療学会学術大会、2019 年 6 月 22 日

- 2) 当院における入院時症状スクリーニングについての検討
—緩和ケアを必要とする患者に緩和ケアチームが介入するために—
宮武和代、藤原慶一、岸口武寛、三嶋美穂、小野友香、市由美子、黒原かおり、高淵陽子、
吉田陽子、松尾敬子、熱田幸子
第2回日本緩和医療学会 中国・四国支部学術大会、2019年8月31日
- 3) 複数の診療科医師と緩和ケアチームにより終末期の肺癌患者と家族の希望を支援した1例
—管理栄養士の関わりを中心に—
熱田幸子、中西初実、市由美子、黒原かおり、高淵陽子、三嶋美穂。小野友香、吉田陽子、
松尾敬子、古立真一、宮武和代
第2回日本緩和医療学会 中国・四国支部学術大会、2019年8月31日
- 4) 終末期乳がん患者の呼吸困難にヒドロモルフォンが著効した1例
三嶋美穂、小野友香、田頭尚士、宮下広大、池内克馬、中西初実、熱田幸子、市由美子、
秋山一郎、藤原慶一、宮武和代
第2回日本緩和医療学会 中国・四国支部学術大会、2019年8月31日